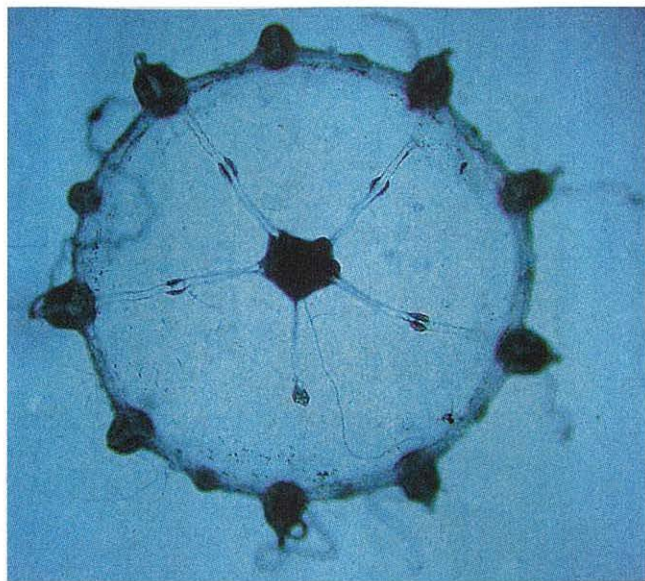


チギレコザラクラゲ



5本の放射管を持つチギレコザラクラゲの未成熟個体 (キザミ・ルナ撮影)

久保田 信

101

チギレコザラクラゲ(新称)は、今回、新しく名前を付けたクラゲである。名前の通り、

傘の縁にできた娘クラゲを引きちぎって増えるクラゲである。母体の数力所にくびれをつくり、それらがのおのおの1個体ずつの娘クラゲになるという不思議な無性生殖法をとる。このように傘縁からのコビづくりをするクラゲはとも珍らしい。一見、出芽かとも思えるが不等分裂しているのである。

チギレコザラクラゲは小型



のヒドロクラゲの仲間、大型個体でも傘の直径は3ミ程度。この特殊なクローンづくりの特徴に加え、本種は放射管が通常クラゲの4本ではなく、なぜか5本ある。その数と対心して口唇も五つある。

触手は最大で28本ほどに達し、感覚器は触手とほぼ同数ある。おのおの1個ずつの平衡石を持つ。小型のもののほど、触手や感覚器の数は少ない傾向にある。

わが国からの本種の記録は少なく、まだ成熟個体が知られていない。生殖巣は5本の放射管のほぼ中央にできる。画像の田辺湾産は未成熟個体で、生殖巣ができて始めている状態だ。

紀伊水道では、100立方センチあたり3千個体も捕れた記録がある。無性生殖によるクローンの存在によるものだろう。田辺湾からはまれにしか捕れていない。本種はもっぱら外洋で暮らしているからかもしれない。ポリプはまだ世界でも知られていない。

(京都大学准教授)